

令和3年度第2回北秋田市総合戦略検証会議 会議録

日時：令和3年8月5日（木）14時00分～15時15分

場所：市民ふれあいプラザ「コムコム」多目的ホール

【出席委員】

伊藤市之丞、伊藤公孝、大穂耕一郎、小塚光子、斉藤貢悦、長崎久美子、中嶋友規、長門良幸、成田耕介、野宮加代子、濱田純、廣林孝文、福原勝紀、福森卓（五十音順、敬称略）

【オブザーバー】

三浦栄一

【欠席委員】

池田文明、奥田実里、織山友里、倉内肇、小塚雅生（五十音順、敬称略）

【説明員】

佐藤進財務部長、小松正彦市民生活部長、石崎賢一健康福祉部長、佐藤栄作産業部長、金澤誠産業部政策監、浅村武則建設部長、小坂竜也教育次長、長岐篤市消防長、畠山孝秀内陸線再生支援室長、長岐孝生総合政策課長

【事務局】

長岐孝生総合政策課長、高田徹政策係長、永坂洋男副主幹、佐藤礼介主査

【会議の概要】

1. 座長挨拶

2. 協議事項

○事務局（永坂副主幹）説明

- ・本会議の資料の確認と会議の進め方について説明。
- ・当日資料1、当日資料2について説明。

第1回検証会議時点で実績が確定していなかった個票No.103の令和2年度実績が確定したことによる修正について。また、修正による当日資料2「北秋田市まち・ひと・しごと創生総合戦略・第2次総合計画目標値達成状況（令和2年度版）」の変更。

（1）第1回検証会議の意見提言等に対する追加・補足説明について

検証資料1「第1回検証会議の意見提言等のまとめ」を基に各部長等より説明を行った後で委員との質疑応答を行った。

〈質疑応答〉

野宮委員） 検証資料1のNo.3について、県のコミュニティ生活圏形成事業のモデル地区として大阿仁地区で行うとあるが、大阿仁地区を選んだ理由とどのように盛り上げていくのか具体的に教えていただきたい。

市民生活部長） 大阿仁地区が選定された理由は、大阿仁地区ではこれまでも「自らの地域を自らで盛り上げていこう」という取り組みをされている実績があり、それらを発展的にとらえていこうということで、県、市、地域とが協議を行った結果モデル地区に選定されたものである。盛り上げていくための具体的な内容については県や市が主導して進めるのではなく、地域の方々が自ら考えて住みやすい地域にするための取り組みを行っていくものである。新しいものだけでなく現在取り組んでいるものを継続的に取り組んでいくためにどうしたらよいかというようなことを話し合っている。

福原委員） 8月の広報に雪寄せ場の無償貸付けに関することが掲載されていたが、空き地の利活用という点で非常に良い取り組みだと思う。自治会への呼び掛けなどを行っているようだが、民生委員や老人クラブなどへ呼び掛けを行うことも良いのではないかとと思う。是非推進していただきたい。

健康福祉部長） 民生委員や自治会長等と雪寄せ、高齢者の対応等について検討していきたい。

野宮委員） 教育委員会施設で草刈りが行われた後の草がゴミとして廃棄されている状況だと思われるが、例えばカブトムシの生育に利用することもできるようなので教育として廃棄ではなく利活用を考えられないか。

教育次長） 草刈り後の処理方法は確認できていないが、利活用については確認をして検討したい。

小塚委員） 少子化について、国ではこども庁を創設して子ども向けの政策を進めようとしている。その中で北秋田市では今後子どもの数が急激に減少していく。今後の保育園の在り方や子どもを取り巻く環境について子ども・子育て会議の中で中長期的な目標を掲げて取り組んでいかなければならないと思っているが市ではどのように考えているか。

健康福祉部長） 保育園の在り方について、市ではこれまでに民間委託、統廃合等について検討してきているが現時点では具体的なものはない。ただし、阿仁地域では義務教育学校への転換が図られるということで、今後は保育園の統合等も検討されることになる

と思う。また、子ども・子育て会議の中で議論をしていただきたいと思っている。

大穂委員）野宮委員からのコミュニティ生活圏形成事業に関する質問について、当事者の一人として説明すると、この事業は秋田県の事業で持続可能な地域づくりのためにみんなで考えていこうというものである。北秋田市の場合は、数年前からこの事業を行いたいということで働きかけを行ってようやく今年度を選定されたものである。大阿仁地区の課題は、大阿仁地区の自治会の集まりは2つあって大阿仁地区としての統一した意思決定ができていなかった。そのため、大阿仁地区のまとまりをつくるというのが目的のひとつである。また、阿仁地域の小中学校の統合に関することで大阿仁小学校の今後の利活用などについて市と住民が協議を行う場合に大阿地区としてまとまった組織が必要だろうということでスタートしたものである。

福原委員）伊勢堂岱遺跡が世界文化遺産に決定したということとふるさと納税が増えていくという話があったが、今後縄文館や周辺施設の整備などを充実させていかなければならないと思っている。そのための財源として首都圏ふるさと会の会員などへふるさと納税の呼びかけなどを行って観光資源の充実を図ってほしい。

総合政策課長）ふるさと納税については、納税者の意思もあるが伊勢堂岱遺跡への活用を行える方法等を検討したい。

濱田座長）秋田県は人口減少率が全国でワースト1になっている。そのなかで北秋田市の移住定住の成果は非常に良い。直近の5年間の人口減少率は阿仁地域が16%減少、森吉地域では13.3%減少、合川地域では11.7%減少、鷹巣地域では7.8%減少、全体では10.2%減少している。行政が窓口となった年間移住者数は5年間の累計で169世帯231人、地域おこし協力隊員数8名となっているが、北秋田市の魅力は何か、その魅力がこれからの若い人にどのような意味があるのかということに関心がある。市では地域おこし協力隊や移住者に対してアンケートなどで調査をしていないか。

総合政策課長）移住者に対してのアンケートで「なぜ北秋田市を選んだか」との設問があるが、それでは「自身や家族の出身地である、マタギに興味がある、農業や林業をしたい、内陸線や空港関係の仕事に転職する、移住の支援制度が充実している」などの回答がある。

また、東北と関東地方からの移住が80%以上となっており、地域別では鷹巣地域57.42%、合川地域15.79%、森吉地域12.92%、阿仁地域13.87%となっている。

（2） 地方創生関係交付金事業の検証について

座長から評価基準について提案され、検証会議での採点結果が36点以上ならA、27点から35点ならB、23から26点ならC、22点以下ならDという内容とした。

各地方創生関係交付金事業について、担当部長より説明を行った後で委員との質疑応答を行った。

「地域連携DMO秋田犬ツーリズムによる観光振興事業」

大穂委員) 秋田犬ツーリズムと市との関係性(職員派遣や会議回数など)がはっきりしないので教えてもらいたい。

産業部政策監) 政策監がツーリズムの理事となっており、北秋田市からの職員派遣は行っていない。会議は毎月行われており、それには商工観光課観光振興係の担当職員が参加して事業の進捗状況や今後の事業について協議を行っている。

■採点結果は38点(妥当性評価12点、有効性評価13点、効率性評価13点)でA評価とする。

「北秋田市クウンス森吉宿泊施設整備事業」

濱田座長) 妥当性評価の「市が関与すべき事業か」の評価が3点のどちらともいえないの評価になっているがどのように解釈すればよいか。

産業部政策監) クウンス周辺にも宿泊施設があることから、クウンスを行政が宿泊施設として整備して経営するのではなく、民間で行っていただくという考え方もあるのではないかということでの評価である。

濱田座長) 整備する段階で周辺にそのような宿泊施設がなかったから行政が整備したのではないのか。その考え方からすると3点ではなく4点にはなると思うのだが。

■採点結果は38点(妥当性評価11点、有効性評価13点、効率性評価14点)でA評価とする。

「北秋田打当温泉マタギの湯どぶろく工房整備事業」

産業部政策監) 検証シートの「事業の取組状況と今後の対応方針について」欄について、修正の説明。

濱田座長) 検証シートに巣ごもり需要とあるが、どぶろくの発送を行っているのか。

産業部政策監) 秋田犬ツーリズムで運営している「こだわりAKITAセレクトショップ」でも販売していて、オンラインでの販売人気ランキングが3位になっている。また、ふるさと納税の返礼品にもなっていて15,000円以上の寄附で「どぶろくマタギの夢(720ml)2本セット」の返礼になっている。令和2年度は寄附件数24件に対して発送

件数 25 件の実績となっている。

■採点結果は 38 点（妥当性評価 12 点、有効性評価 14 点、効率性評価 12 点）で A 評価とする。

「移住定住ネットワークセンター整備事業」

■採点結果は 43 点（妥当性評価 14 点、有効性評価 14 点、効率性評価 15 点）で A 評価とする。

「秋田内陸線阿仁合駅」観光拠点施設整備事業

■採点結果は 43 点（妥当性評価 14 点、有効性評価 14 点、効率性評価 15 点）で A 評価とする。

「森吉山ウェルカムステーション整備事業」

■採点結果は 43 点（妥当性評価 14 点、有効性評価 14 点、効率性評価 15 点）で A 評価とする。

濱田座長）それでは、頂いた意見を私と事務局でまとめて、皆さんに報告させていただきます。

閉会